

### ■背景

平成 31 年 4 月より「新時代に対応した高等学校教育の在り方」について、新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループで審議され、その結果を受けて令和 3 年 3 月 31 日付で学校教育法施行規則等の一部が改正されたことにより、各高等学校で三つの方針（スクール・ポリシー）の策定と公表が義務化された。各校でスクール・ポリシーを策定する前提として、各学校の存在意義、社会的役割、目指すべき学校像をスクール・ミッションとして再定義することが望ましい。

### ■スクール・ミッションについて

- ・各学校の設置者が、各学校の存在意義、社会的役割、目指すべき学校像を再定義する
- ・新たな策定と、公表の義務はない。高等学校全体が策定の基本単位である
- ・各地域の実情に応じて、適切な時期を捉えておこなう（例：教育基本計画の策定期等）
- ・策定にあたっては、各学校と連携すること、学校内外の関係者に対してわかりやすいものとなること、いわゆる学力差を固定化・強化すものとならないことが望ましい

### ■スクール・ポリシーについて

- ・グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成および実施に関する方針）の 3 つを具体的に策定し、ホームページ等で公表する（中学生・保護者の学校選択、進路指導に資するものとしても期待されている）
- ・令和 4 年 4 月 1 日より公表しなくてはならない（特別な事情があり、教育上支障がない場合は令和 7 年 3 月 31 日まで猶予期間がある）
- ・策定の過程において、教職員、生徒、保護者、地域住民、学校関係者から広く意見を聴取した上で策定する

### ■今後のスケジュール

- ・3 月 28 日（本日）の総合教育会議を経て、同日の教育委員会定例会でスクール・ミッションを策定
- ・スクール・ポリシーについては、教職員や生徒、保護者等から意見を聴取した上で策定し、高等学校の入学説明会等で説明予定

# (案) 尼崎市立高等学校 スクール・ミッション 令和4年4月1日施行

※ スクール・ミッションとは、これからの時代を見据え、各高等学校の目指すべき学校像や、期待される社会的役割を再定義したものです



エージェンシー

# Agency

ひら

～自ら考え、行動し、未来を拓く「人」を育てる～

## 尼崎高校

次世代を担うリーダーを育成する学校

- 伝統ある文武両道の校風を発展させ、新たな課題に積極的・主体的に挑戦する力を育む
- 多様化するグローバル社会で活躍するための資質・能力を、体験や実践によって高める
- スポーツを科学的に学び、修得した専門知識・技能を活かし、スポーツを通じて社会に寄与する人材を育てる

## 尼崎双星高校

「社会とつながる」専門性を高める学校

- 地域社会と連携して、キャリア教育や探究学習の充実を図り、課題解決能力のある人材を育てる
- 文化芸術活動など課外活動に主体的に取り組み、豊かな感性と幅広い教養を培う
- 実践的な学びを通して専門性を追求し、地域の産業社会の発展を担う専門人材を育成する

## 琴ノ浦高校

一人一人の夢や目標を実現する学校

- 生徒の個性に合わせた個別最適な学びを対話的に実践し、個性・能力の伸長をはかる
- 地域や社会・人との繋がりを大切に、自己を尊重する豊かな心を育む
- 興味・関心に応じた系列学習を通して、身近な地域社会を支える人材を育成する

## Agency (エージェンシー) とは...

Agency は、グローバル化の進展や技術の進歩の加速によって生じる、予測困難な変化や課題に直面した際に、自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく能力や姿勢のことであり、教育活動や人・社会との関係性において身につけることができます。

Agency は、OECD(経済協力開発機構)で2015年から進められてきた Education2030 プロジェクトの中間報告で公表された、2030年という近未来において生徒たちに求められるコンピテンシー(資質・能力)を再定義した新たな学習枠組み(OECD ラーニングコンパス2030)の中心に位置づけられている概念です。